

「第5回ため池シンポジウムin佐賀」の報告

大内秀之*

2010年10月30日、31日に佐賀県武雄市を主会場として上記シンポジウムが行われ、参加して来ましたので、その様子をお伝えします。

■第1日目 フィールドワーク 13:00～17:00 (白石地域にて)

干満差が日本最大の6mの有明海を控え、大河の無い白石平野は、古代より水に苦勞して来ましたが、三法潟の大日堰、永池の堤、縫いの池、夫婦掘、焼米ため池などを通じて、江戸時代からある利水、治水施設が現在も大切に受け継がれている様子を確認出来ました。



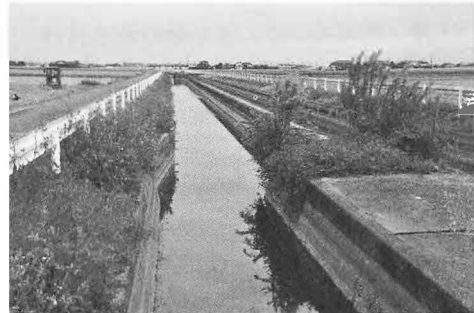
成富兵庫茂安が築いた三法潟の大日堰



最上段のため池から見た永池の堤と白石平野



一度は水が枯れたが大切に守られている縫いの池



南北二つのため池の水が平行に流れる夫婦掘



他領のために自領を提供し、今に残る焼米ため池



シンポに合わせ実施された池の内湖の堤返し(池干し)

※NPO「カエルの分校」

■第2日目 10:00～15:00 (武雄市 武雄温泉ハイツにて)

〔1〕基調講演

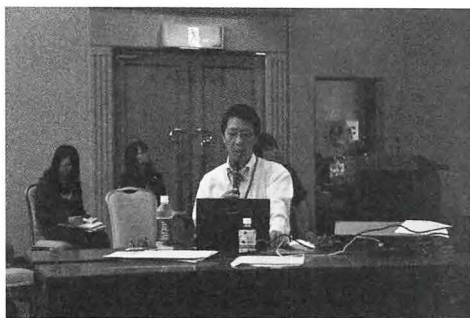
「焼米ため池にみる江戸時代の普請（公共事業）の進め方」

九州大学工学研究院 島谷幸宏教授

成富兵庫茂安などによる大日堰や永池の堤などの利水治水工事により佐賀平野は豊かな台地に変貌していましたが、江戸時代後期、8代佐賀藩主鍋島治茂は、財政建て直しのための数々の改革をしました。

藩校弘道館を創り人材育成に勤めた他、焼米ため池を造るなどの干拓事業を進めましたが、領内には大きなため池を造る適地がなかったため、他領に造らせてもらい、六角川を掛け樋により横断して自領まで水を引くと言う画期的発想により、困難な事業を成功させています。

つまり、柔軟な思考、他領の人々も困らないような根回しと施策、人材の育成と抜擢と言って良く、現代の公共事業にも欠けてはならないことと言えますと、話される島谷教授です。



← 基調講演をする島谷幸宏教授

〔2〕事例報告…以下報告タイトルのみ

- ①池ノ内湖モデルによる総合的水管理
武雄温泉保養村の環境を考える会
- ②池ノ内湖における外来魚駆除の試み
佐賀県立武雄高校 科学部
- ③いなみのため池ミュージアムを核とした「循環する水の路」プロジェクト
兵庫県東播磨県民局
- ④東播磨地域のため池の環境保全活動
国立明石工業高等専門学校 工藤研究室
- ⑤白石平野におけるため池の保全活動について
佐賀県武雄農林事務所
- ⑥大和川流域のため池の位置づけについて
国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所
- ⑦樋井川における流域治水
福岡市樋井川流域治水市民会議
- ⑧40年ぶりに復活した縫いの湧水の保全と地域づくり
縫いの池湧水会

■ディスカッション



生態系のことも含め、活発に行われました。

■感想、その他

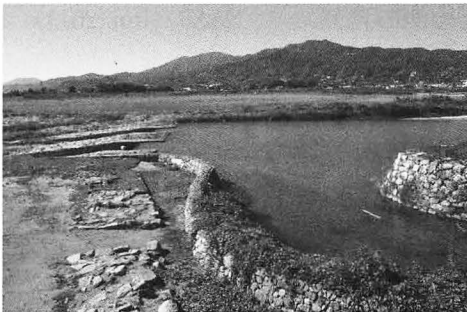
佐賀県で水を語る場合、成富兵庫茂安と彼が行った石井樋や大日堰、永池の堤などの治水利水と、干拓事業、そしてクリークを抜きにしては語れません。一日早く佐賀入りして、それらの見聞をして来ました。

シンポでも感じたことですが、佐賀の人たちは、先人の偉業と水を大切にしていることを改めて知らされ、私たち他県に住む者も、学ぶことの多い地であり、シンポでした。次回シンポジウムは、新潟県の佐渡島で実施の予定です。



← さが水ものがたり館です。

嘉瀬川の防災施設を兼ね、成富兵庫茂安が築いた石井樋に隣接しており、佐賀平野や、成富兵庫について学ぶことが出来ます。(佐賀市大和町尼寺)



↑ 石井樋です。



↑ 佐賀平野に網目状にあるクリークです。